## 株式の状況 & 会社概要 (平成28年9月30日現在)

### ■ 株式および株主の状況

発行可能株式総数 300,000,000株 発行済株式の総数 125,291,112株

株主数 5.911名

### ■ 大株主の状況

株主名	持株数(千株)	出資比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	9,890	7.89
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	8,087	6.46
株式会社伊予銀行	5,329	4.25
株式会社愛媛銀行	5,017	4.00
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	4,783	3.82
三浦工業従業員持株会	4,427	3.53
愛 媛 県	3,000	2.39
公益財団法人三浦教育振興財団	3,000	2.39
野村信託銀行株式会社(投信口)	2,999	2.39
いよぎんリース株式会社	2,906	2.32

(注)1.当社は、自己株式12,744,334株を保有しておりますが、当該株式には議決権が ないため、上記の大株主から除外しております。

(注)2.出資比率は、発行済株式総数に対する持株数の割合を表示しております。

### □ 会計概要

三浦丁業株式会社

立 昭和34年5月1日

資 本 金 9,544,007,333円

社 〒799-2696 愛媛県松山市堀江町7番地 TEL (089) 979-7045 (経営企画室)

### ■ 役員の状況

代表取締役会長 髙 橋 祐 二 取 締 役 兒 島 好 宏 代表取締役宮内大介取締役原田俊秀 代表取締役 西原正勝取締役米田 取 締 役細 川 公 明 茂登志 取締役丹下聖吾

### 株主メモ

毎年4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 毎年6月開催

日 定時株主総会 毎年3月31日

期末配当金 毎年3月31日 中間配当金 毎年9月30日

そのほか必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日

特別口座の口座管理機関 三井住友信託銀行株式会社

株主名簿管理人および 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号

株主名簿管理人 大阪市中央区北浜四丁目5番33号

事務取扱場所 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

(郵便物送付先)

〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号

三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

(電話照会先)

0120-782-031

### 【株式に関する住所変更等のお届出およびご照会について】

証券会社に口座を開設されている株主様は、住所変更等のお届出お よびご照会は、口座のある証券会社宛にお願いいたします。証券会 社に口座を開設されていない株主様は、左記の電話照会先にご連絡 ください。

### 【特別口座について】

株券電子化前に「ほふり」(株式会社証券保管振替機構)を利用さ れていなかった株主様には、株主名簿管理人である左記の三井住友 信託銀行株式会社に口座(特別口座といいます。)を開設しており ます。特別口座についてのご照会および住所変更等のお届出は、左 記の電話照会先にお願いいたします。

### 公告方法 電子公告

ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公 告を行うことができないときは、日本経済新聞に掲載。

上場証券取引所 株式会社東京証券取引所 市場第一部



#### SLを再現した坊っちゃん列車。 夏目漱石の小説「坊っちゃん」に登場したことから名付けられた、 松山市民の貴重な足です。

熱・水・環境のベストパートナー



### IR REPORT

## 第59期中間株主通信

平成28年4月1日~平成28年9月30日

## トップメッセージ

Top Message



### 株主の皆様へ

私たちミウラグループは、「世界のお客様に省エネルギーと環境保全でお役に立つ」という経営理念を実現するため、ボイラで培った技術と経験を活かし、幅広い分野においてお客様の抱えられている問題を解決する「トータルソリューション」を提供する企業を目指してまいりました。これからも世界各地で環境問題の解決や省エネルギーに貢献してまいります。

### 代表取締役CEO 宮内 大介



### 第59期中間期(平成28年4月1日~9月30日)の 事業の概況を教えてください。

当第2四半期連結累計期間の連結業績につきましては、海外においては、円高により売上高が減少したことに加え、台湾や米国において大型物件の売上が減少したことなどにより減収となりました。 国内においては、主力のガス焚きボイラ案件は微増にとどまりましたが、バラスト水管理条約の適用が間近となったため、新造船に対するバラスト水処理装置案件が増加し、売上を伸ばしました。この結果、売上高は468億4百万円と前年同四半期(465億8千5百万円)と比べ0.5%増となり、7期連続増収で過去最高となりました。

利益面につきましては、国内においては、有償保守契約の対象台数増加や新製品の研究開発に対応するための増員などにより、また、海外においてもメンテナンス事業強化のための増員により、グループ全体で人件費が増加しました。この結果、営業利益は45億1百万円と前年同四半期(45億8千4百万円)と比べ1.8%減、経常利益は46億9千6百万円と為替差損等の影響もあり前年同四半期(49億2千5百万円)と比べ4.6%減、親会社株主に帰属する四半期純利益は30億2千8百万円と前年同四半期(32億5千4百万円)と比べ7.0%減となりました。



### バラスト水処理装置の今後の見通しについて 教えてください。

ご存知のように、2017年9月8日にバラスト水管理条約が発効することが決定しました。これにより、2017年9月以降に完成する新造船については、バラスト水処理装置の搭載が義務付けられます。また、既存船についても、2017年9月から2022年9月までの5年間に定期点検時に搭載することが義務付けられました。

ミウラグループでは、数年前より、この新市場の誕生に備え、準備を進めてまいりました。すでに、新造船へのバラスト水処理装置の搭載は開始されており、今期より本格的な出荷が始まっております。5ページのトピックスにも記載しておりますように、2018年度には100億円の売上を目指し、舶用事業部を中心に全社一丸となって取り組んでおります。また、バラスト水処理装置の製造を目的とした新たな工場の建設も順調に進んでおり、お客様のニーズに応えるべく生産体制を強化しております。

株主の皆様におかれましても、この新市場への私どもの挑戦を見 守りつつ、ご指導ご鞭撻賜りますよう、よろしくお願い申しあげます。

## 財務ハイライト

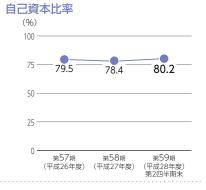
### 連結経営指標



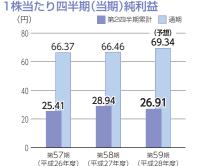


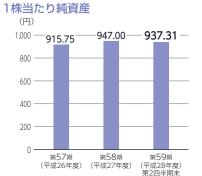






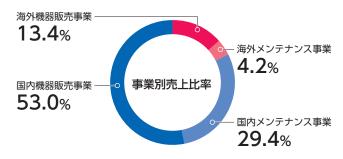








- \*記載金額は百万円単位での切捨、指標は四捨五入して表示しています。1株当たりの情報については円単位で表示しております。
- \*当社は、平成26年10月1日付で普通株式1株につき3株の株式分割を行っております。第57期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、「1株当たり四半期(当期)純利益|「1株当たり純資産|を算定しております。
- \*株式分割に伴い、「1株当たり配当金」の金額の表示については、過去の1株当たりの配当金額を3分の1にし、小数第3位を四捨五入した数字にて表示しております。
- そのため、実際に支払われた1株当たりの配当金の金額と若干のズレが生じておりますことをご了承ください。



### 業績について

46,804百万円 0.5%

- メンテ ▶ 国内においては、主力のガス焚きボイラの売上は微増でしたが、 ナンス バラスト水管理条約の適用が間近となったため、新造船に対
- ▶ 海外においては、円高により売上高が減少したことに加え、 台湾や米国において大型物件の売上が減少したことなどによ り減収となりました。

するバラスト水処理装置の売上が増加し、増収となりました。

4,696百万円 △4.6%

▶ 国内においては、有償保守契約の対象台数増加や新製品の 研究開発に伴う人員増などにより、海外においてもメンテナ ンス事業強化に伴う人員増により人件費が増加しました。

### 国内外壳上比率

(単位:百万円)

地	域	第58期 H27/9	第59期 H28/9	増減率
国	内	36,775	38,582	4.9%
海	外	9,810	8,222	△16.2%
合	計	46,585	46,804	0.5%
海外	比率	21.1%	17.6%	_

(注)海外売上は、海外現地法人の売上を集計しております。

## 売上高 24,791<sub>百万円</sub> 5.5%

### ▶当中間期のポイント

▶当中間期のポイント

特機・メディカル機器が引続き堅調に推移しました。舶用関連にお いては、バラスト水管理条約の発効が目前に迫ってきたため、新 造船へのバラスト水処理装置の売上が大幅に伸びました。この結 果、当事業の売上高は247億9千1百万円と前年同四半期 (235億4百万円)と比べ5.5%増となりました。セグメント利益

ボイラの大容量化や設置台数が増加したことにより、引続き有償

保守契約の売上が堅調に推移しました。この結果、当事業の売上

高は137億6千5百万円と前年同四半期(132億7千万円)と比

べ3.7%増となりました。セグメント利益につきましては、メンテ

ナンス契約製品の増加に対応するため増員したことにより人件

113.765<sub>百万円</sub> 3.7%

につきましては、増員などに より人件費が増加しました が、増収効果により11億3 千9百万円と前年同四半期 (7億6千9百万円)と比べ 48.2%増となりました。



SQ-3000AS×3台と ボイラ室オペレーションパネル



費が増加しましたが、増 収効果により32億5千 6百万円と前年同四半 期(31億9千6百万円) と比べ1.9%増となりま した。





海外 機器 販売 事業

海外

メンテ

事業

国内

機器

販売

事業

国内

事業

## <sup>売上高</sup> 6,260<sub>百万円</sub>

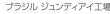
## ▶当中間期のポイント

円高により売上高は大幅に減少しました。さらに昨年大幅に売上 を伸ばした中国で、高効率ガス焚きボイラの売上が微増にとどま り、台湾や米国においては大型物件の売上が減少したことにより 減収となりました。この結果、当事業の売上高は62億6千万円と 前年同四半期(79億3千8百万円)と比べ21.1%減となりました。 セグメント利益につきましては、米国 やカナダが減収となり赤字に転落した ことにより2千万円と前年同四半期 (5億1千2百万円)と比べ96.0%減 となりました。



中国向け 高効率低NOxボイラ







## 公益社団法人日本マリンエンジニア リング学会『貢献賞』を受賞!

2016年9月27日、公益社団法人日本マリン エンジニアリング学会50周年記念式典が開催 されました。公益社団法人日本マリンエンジニ アリング学会は、日本経済を支える海上物流で ある船舶に関する舶用機関・機器及び海洋機器 の工学と技術の進歩発展を目的に1966年4 月に発足し、舶用機関の安全性や技術向上は もとより、省エネルギーや海洋汚染防止などの 環境問題の研究活動にも取り組んでいます。 ミウラは、当会に1974年に入会しており、こ のたび、国際会議の理事協賛やボイラ関連の 研究会活動など、長年にわたり学会の運営基

献賞』を受賞いたしました。 今後もミウラは、世界の海洋環境保全に貢献 する「バラスト水処理装置HK」をはじめ、さま ざまな製品で「世界のお客様に省エネルギー と環境保全でお役に立つ というミッションの もと、よりよい商品をお客様へお届けできるよ う取り組んでまいります。

盤の安定に著しく貢献したことを認められ、『貢



取締役 常務執行役員 舶用事業本部長 細川 公明

## ▶当中間期のポイント

積極的なメンテナンス網の拡大や大手ユーザーに対する有償保 守契約の取得活動を行い、ほとんどの国において現地通貨ベー スでの売上を大幅に伸ばしましたが、円高の影響を受けました。 この結果、当事業の売上高は19億6千1百万円と前年同四半期 (18億7千1百万円)と比べ4.8%増にとどまりました。セグメン

**1.**961<sub>百万円</sub>

国ともメンテナンス網の 整備及び増員を行い経費 が増加しましたが、増収効 果により△1億2千8百万 円と前年同四半期(△1 億4千9百万円)と比べ損 失が縮小しました。

ト損益につきましては、各

## 船舶バラスト水規制管理条約が批准しました!

IMO(国際海事機関)は、2016年9月8日にフィンランドが船舶バラスト水規制管理条約に批准したことにより、発効要件である「30ヶ国以上の批准かつ批准国の合計商船船腹量が世界の商船船腹量の35%以上」を満たしたため、その1年後の2017年9月8日に同条約が発効することを発表いたしました。また、10月に入って、最大船腹量を有するパナマ等も次々に批准を表明しており、2016年10月21日現在の批准国数は53ヶ国、合計商船船腹量は53.28%となっております。



# バラスト水処理装置の販売へ向けたミウラの取り組みについて

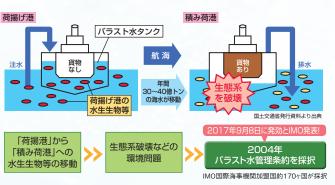
バラスト水処理装置を販売するためには、IMOの 定める型式認証を取得する必要がありますが、 ミウラはこれを取得しております。但し、北米に就 航する船舶については、USCG(アメリカ沿岸警 備隊)が、海水、汽水、淡水の「異なる水域」すべて で使用可能であることを条件とした、法的拘束力 のある厳しい規制を独自に設けており、現在、 ミウラではUSCGの型式認証取得に向け、準備 を進めております。

バラスト市場規模:世界の隻数 8万~10万隻 ミウラのターゲット:1万9千隻(2~6万DWT\*の小中型船) \*DWT=最大積載量の重量(Dead Weigt Tonnage)

バラスト市場でのシェア拡大をミウラの成長戦略の柱の1つと位置付け、50年の実績と経験を誇る舶用事業部を中心に、ボイラで培った技術と信頼を活かし、全力で取り組んでまいります。 今後とも一層のご支援を賜りますようお願い申しあげます。

### バラスト水管理条約とは

バラスト水とは、荷物を積んでいない船を安定させるために、船内のタン クへ取り込まれる海水のことをいう



## バラスト水処理装置の売上予想





